シンガポールの暮らしと消費のリアル

高知県シンガポール事務所

池田　晃久

こんにちは。高知県シンガポール事務所の池田です。

早いもので、昨年４月に赴任してから１年が経ちました。８月には妻と２人の娘もシンガポール入りし、元気に現地の日本人学校に通ってくれています。

今回、海外拠点だよりの執筆担当を拝命し、「さて何を書こうか」と過去の原稿を見返しておりますと、意外にも現地生活に焦点をあてているものが少ないことに気が付きました（高知県貿易協会 Web サイトでの発信ですので、当たり前かもしれませんが）。

そこで、今回はあえてビジネスに直結する話題から離れて、シンガポールでの生活にスポットを当てた内容でお届けしたいと思います。会員の皆さまには、「もしかしたらビジネスチャンスに繋がるかも」といったエッセンスをどこかに見つけていただけると幸いです。

◯日々の買い物

現地に駐在している県庁職員の立場としては、こちらに輸出されている県産品を毎日購入し、輸出増に少しでも貢献したいと意識するところではありますが、残念ながら、そんなことをしていてはあっという間に貯金が底をついてしまいます。

ということで、日々の買い物には現地スーパーやマーケットを多く活用しています。シンガポール国内で大手スーパーは、価格帯順に「Cold Storage」、「NTUC Fair Price」、「Sheng Siong」の３つがあり、島内に多数の店舗を展開しています。

このうち、Cold Storage と Fair Price は、それぞれ「CS Fresh」、「Fair Price Finest」といった高価格帯向け旗艦店を展開しており、輸入商品を始め幅広い商品を展開しています。時には、フェア等で高知県産品が店頭に並ぶこともあり、先日は県農産物マーケティング戦略課の事業の一環で、FairPrice での高知県産野菜のフェアが実施されました。

私の場合は、自宅最寄りのスーパーが「Sheng Siong」ということもあり、そちらを多く活用しています。前述の２つのチェーンと比べるとローカル（主に中華系）の方々の利用率が高い印象で、価格も比較的安く抑えられています。周囲の日本からの駐在員

の方もよく利用されているとのことで、最初はローカル感が強く、入るのに躊躇しましたが、慣れてしまえば違和感なく買い物ができます。

また、シンガポール各地にはローカルのウェットマーケット（日曜市のような雰囲気をイメージしてください）もあり、そちらでは野菜・果物・肉・魚等の生鮮品が比較的安い値段で購入でき、鮮度も良い場合が多いです。しかしこちらはよりローカル向けで、例えば精肉店では、豚肉や鶏肉が「原型をとどめて」販売されているなど、心理的なハードルが少し高いです。異国情緒を味わいたい方には非常におすすめです。

自宅最寄りの Sheng Siong

ウェットマーケット

◯公共交通

シンガポールは公共の交通機関が非常に発達しており、大抵の場所にはバスと電車を乗り継いで行くことができます。料金も比較的安く、概ね S$1～2（日本円で約 125 円～250 円）です。私も、朝はバスと電車を乗り継ぎ、帰りは節約のためバス１本で通勤しています。

電車は島内で５路線あり、島内のほぼ全方角をカバーしています。駅に直結してショッピングモールやコンドミニアムを併設しているところも多く、非常に雨が多いシンガポールですが、場所によっては濡れずに通勤することも可能です。

バスは把握できないほど膨大な路線数があり、電車と比べて時間はかかるものの、概ね全ての場所へたどり着くことができます。慣れてくると、家から最寄りのバス停に着く路線の番号を覚えておき、出先から目的の路線のバスをピンポイントで探して乗るといったこともできるようになってきました。

注意点ですが、こちらのバスは、ハンドサインや目線で乗る意思をドライバーに示さないと、たとえバス停に居てもそのまま素通りされてしまいます。私も、バスを待っている間にスマホを見ていて素通りされるなど、何度か痛い目にあいました。

ちなみに、いずれの交通機関も７歳以下の子どもは無料で利用できますが、電車は朝晩はギュウギュウ、バスは基本的に運転が激しく、急加速や急ハンドルは当たり前ですので、子供同伴で乗車するときは要注意です。

MRT 路線図

シンガポールで多い２階建バス

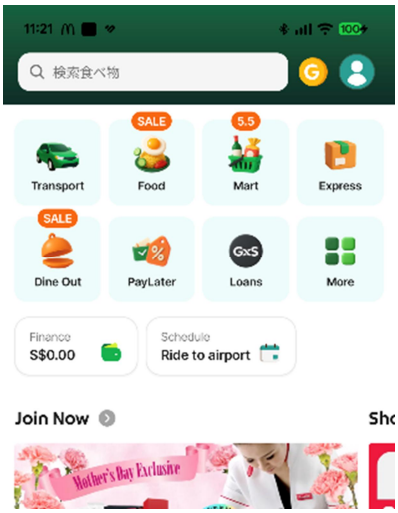
◯ライドシェア

現地生活において、Grab や Gojek といったライドシェアタクシーは、もはや必須といっても過言ではないインフラになっています。

なかでも、シンガポールに本社を置く Grab は、東南アジア全域でサービスを展開しており、タクシー配車のみでなく、フード配達、通販、宅配便、オンライン決裁、金融、保険など、多分野での事業展開を行っています。

特に、GrabMart と呼ばれる E-コマース機能では、マレーシアの小売大手 Jaya Grocer の子会社化、シンガポールで FairPrice、Cold Strage、Sheng Siong との業務提携など、物流・調達機能の強化に向けて取組を続けています。

食品関係においては、こうした E-コマースとの連携を行っている小売企業への商流の構築ができれば、さらなる販売拡大が見込めるのではと思います。



Grab の画面例。Transport, Food, Mart など多様なサービスが利用できる

◯教育

シンガポール島内には多くの在留邦人（多くは日本の法人等からの駐在員）がおり、その子女が通う学校も多数所在しています。そうした邦人が多く加入するシンガポール日本人会では、幼稚園、小学校、中学校の運営を行っており、私の娘２人も、島内に２か所ある日本人小学校のうち１校に通っています。

授業は、日本人教師が日本の学習指導要領に則って日本語で行い、日本の義務教育を履修したものとしてカウントされます。一部、音楽や体育では英語のみの授業が行われ、また週に２回程度英語の補修授業が行われます。

通学は、基本的には通学専用バスで通われる児童が多く、子女帯同のご家庭では、バスの停留所近くを狙って住居を決められる方も多数おられます。私の場合は、通学バス代（結構な金額です）を節約するため、日本人学校に徒歩で通える場所に自宅を構えており、子供と妻には日々の通学で脚力を鍛えてもらっています。

日本人学校の他にも、インターナショナルスクールやローカルの学校など、多様な選択肢が用意されており、そうした学校に子供を就学させ、国際感覚や高い学力を身に付けさせるために、あえてシンガポールに移住されるご家庭も多くあります。

また、シンガポールには、シンガポール国立大学（National University of Singapore/NUS）、南洋理工大学（Nanyang Technological University/NTU）といった、世界大学ランキングで東京大学を上回るほどの高い評価を受けている大学も多く、そう

した大学への進学実績の高い学校に就学させることを目的に、教育移住が盛んに行われています。

シンガポール日本人小学校（クレメンティ校）

自宅から見えるNUS（シンガポール国立大学）

◯国民のシンガポールへの帰属意識

　こちらに在住して驚くのは、国民のシンガポールに対する帰属意識、言い換えると愛国心の強さであり、中国系、インド系、マレー系といった出自が様々な中においても、「自分はシンガポール人」といった共通のアイデンティティが強く感じられる点です。

　シンガポール独立への経緯を書くと長くなりますが、イギリスによる植民地政策、太平洋戦争中の日本による統治を経て、マラヤ連合（マレーシア）として独立したものの、激化した民族対立により、1965年に、半ばマレーシアから追い出される形で都市国家として独立しています。

　国土は非常に狭く、農地や天然資源にも乏しく、水さえ他国に依存していた時代がありました。そうした厳しい状況の中で、リー・クアンユー初代首相のもと、貿易・金融・港湾・教育などに国を挙げて力を入れ、現在の国際都市へと発展してきた歴史があります。

　そのためか、シンガポール人の間では、「自分たちの努力で国を発展させてきた」という意識を感じる場面が多くあります。街中でも国旗を目にする機会は非常に多く、独立記念日前後になると、HDB（公営住宅）に国旗を掲げる家庭も数多く見られます。

　昨年の独立60周年（SG60）の際も、国内全体がお祝いムードに包まれていました。テレビや駅構内では記念ソングが頻繁に流れ、ショッピングモールでも関連イベントが開催されるなど、国を挙げた盛り上がりを感じました。私の娘たちも、気が付けばその歌を口ずさんでいたほどです。

さらに、今年 2026 年は、日本とシンガポールの国交樹立 60 周年（SJ60）の年にあたります。日本大使館をはじめ、さまざまな機関・団体が記念事業を予定しており、両国間の交流がさらに深まる一年になりそうです。

シンガポールは経済面で注目されることが多い国ですが、実際に生活してみると、「多民族国家としてどう共存するか」「限られた条件の中でどう国を成長させるか」といった強い意識が、社会全体に根付いているように感じます。そうした背景を知ることで、この国の見え方も少し変わってくるのではないでしょうか。

2025 年（建国 60 周年）に毎日流れていた CM

SJ60（日星国交 60 周年記念）ロゴ

◯まとめ

シンガポールは、日本から見ると「便利で都会的な国」というイメージが強いかもしれません。実際、その通りだと感じる場面も多い一方で、暮らしてみると、多民族国家ならではの文化や価値観、日本とは異なる生活スタイルなど、日々さまざまな発見があります。

また、そうした現地ならではの感覚を知ることは、生活面だけでなく、海外でのビジネスを考える上でも意外と重要なのだと感じています。スーパーの品揃えや、人々の買い物の仕方ひとつを取っても、「どんな商品が求められるのか」を考えるヒントが多くあります。

今回の記事では、あえて仕事の話から少し離れて、シンガポールでの暮らしについて書いてみました。少しでも現地の雰囲気を感じていただけていれば幸いです。

今後も、現地での生活や市場の動きなどを通じて、海外のリアルな情報をお届けしていきたいと思います。